



平成30年6月1日

加盟団体
競技審判部会部員
公認レフェリー
公認審判員資格審査認定委員 各位

公益財団法人日本バドミントン協会
競技審判部長 山田順一郎

2018—2019 BADMINTON 競技規則（諸規程集）

ならびに

公認審判員資格検定会講習会ルール教本 2018 の発刊について

—ニュースコアリングシステムとサービス高の固定に関する改訂に関する
世界バドミントン連盟の決定事項と本会の取り扱いについて—

平素から本会の競技審判活動の普及発展にご理解とご尽力を賜り誠に有難うございます。

さて、ご承知のことと思いますが、平成30年5月19日バンコク市（タイ）で開催された世界バドミントン連盟（BWF）年次総会において「スコアに関する改訂（ニュースコアリングシステム）とサーバーによって打たれる瞬間のシャトルの高さ制限の改訂」に関する協議がなされ、票決の結果ニュースコアリングシステムへの移行は否決され、それに伴いコーチ席の廃止、選手によるタイムアウトの要求に関する提案も取り下げられました。つまりスコアリングシステムは現行の21ポイント3ゲーム制が継続されることになりました。

一方、サービス高の固定に対する提案は可決され、サービス高は固定されることになりましたが、現在 BWF 主催大会において実験的に実施されている1.15mを採用するかどうかは、12月の BWF 理事会で協議されることになりました。

本会では、平成30年度中（平成31年3月末日迄）はサービス高の固定は実施せず、従来の競技規則、つまり「サーバーのラケットで打たれる瞬間に、シャトル全体がサーバーのウエストより下になければならない」という現行規則を継続し、サービス高に関する競技規則の平成30年度中の改訂予定はありません。

上記のことから、(公財)日本バドミントン協会は2018—2019BADMITON 競技規則書（諸規程集）ならびに公認審判員資格検定会講習会ルール教本 2018 の発刊を8月1日に実施することになりました。

以上